

防災訓練を計画するに当たって

1 訓練の目的・目標設定

- ・防災訓練は、災害時に住民一人一人が適切な避難行動を取ることができるようになるために行うものです。
- ・訓練を実施するに当たっては、訓練に参加する住民から何を学んでもらいたいのか（地域の災害リスクを知る、災害時の一時避難場所の確認、避難時の持出品…等）を決めましょう。
- ・地域の防災士や消防機関など、専門的な知識や技術を持つ人に訓練内容についてアドバイスを求めることも一つの方法です。なお、町内会に防災士がいないなど訓練のやり方がわからない場合には、防災士会から派遣することもできますので、市へご相談ください。

2 防災訓練の実施メニュー（例）

① ハザードマップから見る地域の災害リスク確認

市が公表している各種ハザードマップ（洪水・津波、土砂災害、ため池）を参考にしながら、地域の危険箇所や防災上の問題点を確認し、話し合っって対応策を事前に決めます。

② 避難訓練

自宅から地域で決められている一時避難場所まで避難してみるにより、避難にどのくらい時間がかかるのか、また、避難の際に使う経路で危険な箇所がないかを確認します。また、消防団と避難時の役割を確認し、連携した訓練を実施することも大事です。

③ 初期消火訓練

消防署への火災発生通報や住民の避難誘導、訓練用消火器や消火用バケツを使用した初期消火の方法を学びます。消火器の正しい使用法や火災から身を守る方法など、必要に応じて消防団や消防署から指導を受けましょう。

なお、消火栓からの放水は大変危険なため、一般市民が使用することはできません（裏面“訓練のポイントなど”を参照）。

④ 要支援者関係訓練

要支援者とその家族に防災訓練の参加を呼びかけたり、要支援者を交えて実際の個別避難計画に沿った情報伝達、安否確認、避難誘導などについて確認しましょう。

⑤ 防災資機材の取扱訓練

地域で用意している防災資機材（発電機や投光器、救助用品など）を実際に使ってみることで、正しい使い方を学びます。

裏面に続く

3 参考資料

- ・自主防災組織訓練マニュアルや自主防災組織初動対応マニュアルを作成していますので、防災訓練の内容を考える際の参考資料として、ご活用ください。



上越市自主防災組織
訓練マニュアル



上越市自主防災組織
初動対応マニュアル

※上記マニュアルは市ホームページにも掲載しています。

上越市ホームページ>検索コーナー 組織で探す>市民安全課（原子力防災対策室）>地域防災に関すること >自主防災編

4 訓練のポイントなど

○自主防災組織や町内会が行う「初期消火」について

- ・消火器で初期消火できる火災は、一般的に炎が天井付近に達するまでの間です。消火栓を使用した消火活動が必要な火災は、既に初期消火の段階ではありません。
- ・また、防火衣等の安全装備を着用せず、訓練を行っていない一般の住民が消火活動に携わることは大変危険なため、消防団や消防署に任せましょう。

○町内会長や役員がいなくても対応できるように

- ・災害発生時に、必ず町内会長や役員の方が地域にいるとは限りません。
町内会長等が不在の場合を想定した初動対応も考えておきましょう。

○継続的な訓練の実施について

- ・災害時に適切な避難行動を取ることができるようになるためには、繰り返し訓練を行う必要があります。
- ・地域の行事で防災資機材として備えている発電機等を使って資機材取扱い訓練を兼ねるなど、定期的に訓練を実施する体制を整えましょう。

○消防団との連携について

- ・消防団と災害時の役割を確認し、連携した訓練を実施しましょう。